資料 3

平成30年度ジュニアサンゴレンジャー事業
実施報告書（案）

2019 年 5 月

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会

ジュニアサンゴレンジャー事務局

○ジュニアサンゴレンジャー事業について

【目的】沖縄県サンゴ礁保全推進協議会(以下「協議会」という)は、「こどもたちのサンゴやサンゴ礁保全に関する意識の向上と環境学習の支援を行うとともに、指導者・教育活動団体のサンゴやサンゴ礁保全活動に関するスキルアップをめざし、沖縄県のサンゴ礁が末永く保全されるための活動を拡大すること」を目標として、サンゴ礁保全活動等を行う団体への助成事業を実施する（ジュニアサンゴレンジャー実施要項第一条より）。

【支援対象となる活動】サンゴやサンゴ礁の保全・普及に関する活動や調査・研究活動で、幼児、小学生、中学生、高校生のいずれかが参加し、成人の活動責任者を活動団体に含むものとする。

＜平成 30 年度ジュニアサンゴレンジャー事業の実施＞

平成 30 年度、第 2 回目となるジュニアサンゴレンジャー事業を平成 30 年 7 月 11 日（水）～平成 31 年 3 月 31 日（日）の期間で実施した。期間中に 2 回の募集をおこない、計 9 件（採択上限 10 件）の申請があった。9 件全てが支援対象活動として採択され、このうち 1 件の辞退があり、8 件の活動に対して支援をおこなった。8 件の活動に対して 5 万円を上限として支援金を支給し、また希望する団体には協議会より資料の貸出、講師の派遣などの支援をおこなった。

事業は、アラムコ・アジア・ジャパンによる支援（アラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援金）を受けて実施した。

＜平成 30 年度ジュニアサンゴレンジャー事業審査会について＞

支援対象活動の審査は、メールによる評価表の集計、および審議により行った。審査会、審査員の構成については以下の通りである。

審査委員長：木村匡

審査委員会：案納昭則、金城賢、後藤亜樹、広野行男

＜支援対象活動の募集＞

平成 30 年 7 月 11 日～平成 30 年 7 月 27 日（前期）、平成 30 年 10 月 16 日～平成 30 年 11 月 16 日（後期）の２回にわたり、当協議会メーリングリストや HP、Facebook ページを通じて呼びかけ、またサンゴ礁保全や海洋生物に関する研究を行っていた実績がある県内小中高校や NPO その他の団体に個別にチラシ・案内文などを送付することで、支援対象活動の募集を行った。募集にあたっては支援対象活動募集のポスター・チラシ（別紙 A）を制作し、印刷したものを送付、もしくはデータにて送信した。

募集の結果、前期／後期の募集期間でそれぞれ 5 件／4 件、計 9 件（採択上限 10 件）の申請があった。9 件全てが支援対象活動として採択された。

＜ジュニアサンゴレンジャー事業支援対象活動＞

平成 30 年度のジュニアサンゴレンジャー事業の支援対象となった活動を以下に示す。申請・採択数については昨年の４件から９件このうち実際に実施・支援できた活動については昨年の２件から８件と、いずれも増加した。

表 1. 平成 30 年度ジュニアサンゴレンジャー事業の支援対象団体・活動

No.	団体名	活動名	地域　　備考
H30_01	沖縄大学盛口ゼミ	大学生による石垣島の小中学生への海の環境教育実践	沖縄本島
H30_02	沖縄県立八重山高校	生物部石垣島沿岸生物調査	石垣島
H30_03	サンゴまもりんちゅ	南城市のサンゴ礁の実態調査、こどもたちと具体的に取り組めるサンゴ礁保全方法の普及	沖縄本島
H30_04	社会福祉法人子供の家福祉会　こどもの家保育園	こどもの家ちびっこサンゴ隊	石垣島
H30_05	特定非営利活動法人　珊瑚舎スコーレ	カーミージーのイノーレンジャー	沖縄本島
H30_06	やらだ出版	海ゴミアートプロジェクト	
H30_07	沖縄県立北部農林高等学校	ウデナガカクレダコ(シガヤー)の学習実験	※辞退
H30_08	NPO 法人久米島ホタルの会	久米島ホタレンジャーのイノー(礁湖)サンゴ探検隊	
H30_09	社会福祉法人ふくぎ福祉会ふくぎの郷保育園	サンゴの不思議見っけ隊	

申請のあった活動は、どれも概ね本事業の趣旨に合致するものであったが、審議で一部の活動に対して審査委員から「研究がサンゴ礁保全にどのようにつながるのか」「実施する環境教育の具体的な内容はどのようなものか」などの質問事項があがり、これに対して申請者が回答し、十分な説明がなされたと審査委員会で判断されたため、いずれも採択した。またウェーダー（胴長）を使用したフィールドワークを含む活動２件に対し、安全管理上の対策について意見があがり、十分に安全な水深での活動に限定する条件で採択した。

過去の活動のほとんどない、新規に立ち上がった団体からの申請１件については、協議会のアドバイスのもと活動を進めることを条件として採択した。

１団体については、実験に用いるウデナガカクレダコが捕れず、それにともなって購入予定の研究機材も購入しなかったため、辞退したいとの連絡を受け助成辞退となった。

＜各支援対象活動の実施報告＞

H30_01 沖縄大学盛ロゼミ

実施団体名	沖縄大学盛ロゼミ
活動名	大学生による石垣島の小中学生への海の環境教育実践
活動日	2018 年 9 月 16 日～18 日
参加人数	大学生（8 名）、白保の小中学生（最大 13 名）、海星小学校（全校生徒約 90 名）
活動場所	石垣島・白保（しらほサンゴ村と白保海岸）、海星小学校
活動内容	大学が不在の石垣島において、大学生による環境教育実践を、白保におけるこどもキャンプ（NPO 夏花と協働）と、私立海星小学校において行う。
活動状況	こどもキャンプにおいては、1泊2日の日程の中で、3時間の地域や海に関わる授業を実施したほか、海岸でのキャンプ（ただし、当日は台風による強風のため、しらほサンゴセンター内の中庭でのキャンプに変更）、白保海岸での海遊び（シュノーケリング、シーカヤック、サップを含む）を行った。また、学生たちは、白保のサンゴ礁についてより知識を得るため、キャンプ終了後、地元ガイドの引率によって、白保周辺のサンゴ礁のシュノーケリングによる観察も行った。海星小学校においては、全校生徒を低学年、中学年、高学年に分けて、それぞれ1時間ずつの、海の自然に関する授業を実施した。
活動の効果	白保のこどもキャンプにおいての環境教育実践は、2011 年度より連続して今年度まで行っている。キャンプ終了後の振り返りにおいても、子どもたちから、また来年も大学生に来て欲しいという要望が寄せられた。また、キャンプ時には、前年度まで参加していた中学生（現・高校生）もボランティアで参加するなど、環境教育を含めたキャンプが。確実に地域の子どもたちに受け入れられているという印象を得た。さらに、海星小学校での授業実践も含め、授業者となった学生の得たものは大きく、卒業後、小学校教員を目指す学生たちにとって、教員採用後、各地の現場でこの経験を活かし、環境教育を実践していってくれることを期待している。
支援額	46,640 円
その他の支援	
成果発表	サンゴ礁ウィークでの発表（→交流会での口頭もしくはポスター発表に

	変更）

H30_02 沖縄県立八重山高校

実施団体名	沖縄県立八重山高校生物部
活動名	生物部石垣島沿岸調査
活動日	2018 年 4 月 12 月（計 7 回）
参加人数	延べ 50 名（生徒 5 名、顧問 3 名）
活動場所	石垣市名蔵アンパル、真栄里海岸、多田浜海岸
活動内容	① 石垣島西部、名蔵アンパル干潟のキバウミニナについて、干潮時は歩いて、満潮時はカヌーでその生態を調査した。 ② 石垣島南部、多田浜海岸のムカデミノウミウシについて、干潮時にイノー（礁池）をあるいて、その生態を調査した。
活動状況	＜調査で明らかになったこと＞ ① キバウミニナはのんびりした動きに似合わず、実は1週間で最大9m ほどは移動するアクティブな貝だった。…など、添付ポスター参照 ② ムカデミノウミウシは、観察する季節により大きく個体数が変動した。ミノの部分に褐虫藻を共生させているkとおから、光を好むことが予想され、飼育実験でもそのとおりの結果となった。ど…添付ポスター参照
活動の効果	活動成果を各所で発表したことにより、石垣の自然環境やキバウミニナ、ムカデミノウミウシの生態の一端を知らせることができた。 ・「八重山に国立自然史博物館をつくろう！」研究発表会＆講演会 ・沖縄県生徒科学省作品展 ・高校生による生物科学展 ・沖縄青少年科学作品展
支援額	50,000 円
その他の支援	
成果発表	サンゴ礁ウィークでの発表（→交流会での口頭もしくはポスター発表に変更）

H30_03 サンゴ守りんちゅ

実施団体名	サンゴ守りんちゅ
活動名	南城市のサンゴ礁の実態調査／こどもたちと具体的に取り組めるサンゴ礁保全方法の普及
活動日	2018 年 10 月～2019 年 1 月（計 11 回）
参加人数	延べ 174 名
活動場所	つきしろ公民館、玉城青少年の家、八重瀬イノ一、与那原町イノ一、美ら海水族館、奥武島グラスボート
活動内容	多くのサンゴ礁識者の方々からお話を聞くことで、サンゴ礁への知識をバランスよく深めることで、今後のどのような取り組みでサンゴ礁保全活動を展開できるかを考えた。サンゴ礁だけでなく、環境問題も考えることでサンゴ礁を取り巻く現段階での地球環境状況にも触れる。 また机上での学習だけではなく、屋外でのフィールドワークを体験することで活動内容 豊かに息づく沖縄のサンゴと生き物たちにも触れ合い、自然の中での生態系の循環を知り、自分たちがどこに立って暮らしをしているかも考えられるように活動 内容を計画した。南城市の海辺やサンゴ礁についても講話を依頼、主催した。奥武島でのグラスボートで砂浜から斜面までを実際に見ることで、サンゴ礁の地形を実体験することができた。 成果発表として体験をレポートにまとめた。
活動状況	毎月 1～2 回集まり、こどもたちと学習、意見交換、振り返りなどをした。成果発表レポートをまとめることで特に 4 年生は学習したことへの自信につなげることができた。お話会やサンゴ礁ウィークのイベントを主催することにより、メンバー以外の方々に、自分たちの体験したことを発表し、わたしたちが今できる保全を伝えるところまでできた。
活動の効果	メンバーがサンゴ礁を学習することで得られた経験を活かし、生活の中に取り入れる、または友達にも話せるような効果が出た。RBC「南の島のミスワリン」のご協力により TV 放映をしてもらったことで、一般市民でも取り組めるサンゴ礁保全活動の輪が広がればという思いにも、効果が出た。屋外でのフィールドワークやビーチクリーンを通して、豊かな自然の中で取り組 むことで、生き物たちにも触れ合い生態系のバランスを考えられる思いを育めた。活動を通してサンゴ礁保全活動の輪が少し広がったように思えるし、同じ思いのグループの存在を知ることで活動のレベルを広げることができると確信した。
支援額	49,875 円
その他の支援	協議会からの講師派遣（鹿谷麻夕）、活動に関する相談

成果発表	①「私のサンゴ礁展」への応募（6 点）②交流会での口頭もしくはポスター発表も希望

H30_04 こどもの家ちびっこサンゴ隊

実施団体名	社会福祉法人子供の家福祉会　こどもの家保育園
活動名	こどもの家ちびっこサンゴ隊
活動日	第１回目：2018 年 9 月 7 日　第２回目：　2019 年 2 月 21 日
参加人数	17 名
活動場所	多田濱海岸・こどもの家保育園
活動内容	第１回目は、多田浜海岸にて干潟観察を実施。 第 2 回目は、保育園室内にて養殖サンゴの観察・サンゴの苗作り
活動状況	第１回目 夏の大潮にて現れる干潟に生息する生き物を観察しました。 第２回目 養殖サンゴを用いりポリプを虫眼鏡で見たり、ブラックライトを照射し蛍光タンパ ク質を光らせたり、生のサンゴに触れて感触を確かめながらサンゴの苗作りを行 い、一人ひとりが想い描くサンゴ礁を水槽の中に表現し造った。
活動の効果	●図鑑などを見る機会が必然的に多くなり、子どもたちなりに海に対しての興味・ 関心が芽生え、休日になるとお父さん、お母さんを誘って海へ足を運ぶという姿が 見られるようになった。 また、お散歩などで海へ行きたいという子どもたちの声も、たくさん聞こえるよう になった。 ●サンゴはどんな形でどんな生き物なのかと調べる学習をした経験もあり、自主的 に考え調べるという行動にもつながった。
支援額	49,672 円
その他の支援	
成果発表の方法	・「私のサンゴ礁展」への応募

H30_05 カーミージーのイノーレンジャー

実施団体名	特定非営利活動法人　珊瑚舎スコーレ
活動名	カーミージーのイノーレンジャー
活動日	2018 年 10 月 22 日（昼）、11 月 5 日（昼）、2019 年 1 月 31 日（夜）、2 月 14 日（夜）
参加人数	27 名
活動場所	浦添市港川地先カーミージー周辺海岸
活動内容	浦添市港川地先カーミージーで冬場の昼夜それぞれで磯歩きを行い、出現生物を観察する。昼間の活動では、主に高等部の学生が、磯歩きの際の安全管理について学ぶ。夜間の活動では、初等部から高等部(10～18 歳)の学生 18 名をグループ分けし、高等部の学生に各グループの引率を任せる。
活動状況	10 月、11 月の昼間は高等部の学生が学校から現地までの行き方、潮の満ち引きに よって干出する場所の確認、およびサンゴ片やオカヤドカリ、岩礁の貝類、ナマコ、イソギンチャク、アナアオサなどの観察を行った。1 月の夜の実施では、ウニ、エビ、カニなどの夜行性生物を観察し、初等部・中等部を連れ出す際に生じうる危険 性・注意点についての確認を行った。2 月の夜の実施では、高等部の学生 5 名がそれぞれ初等部、中等部、保護者を 3-4 名ずつ連れて、現地案内を行った。
活動の効果	本事業では、合計 3 回の下見を経て、活動に必要な基本情報(天候、海況の確認等)や諸注意(危険な行為、迷惑な行為等)、活動の意義などを、高等部の学生が自分たちで話し合って決め、2 月の活動日前日(2 月 13 日)に初等部・中等部・保護者 活動の効果を対象とした講習会を開催した。従来の授業形態においては、高等部の学生は講師に連れられて、磯の生物観察を行うのみであったため、本事業によって、リーダーとしての責任感が各自に芽生え、学習内容(生き物の住処と暮らし)および生き物を探す楽しみを子供たちと共有することができるようになった。
支援額	50,000 円
その他の支援	
成果発表の方法	「私のサンゴ礁展」への応募

H30_06 海ゴミアートプロジェクト

実施団体名	やらだ出版
活動名	海ゴミアートプロジェクト
活動日	2018 年 11 月 24 日（日）
参加人数	115 名
活動場所	南城市役所　保険センター
活動内容	準備期間中及び23日午前中に講師をはじめとするスタッフで海ゴミを拾う活動 を実施。 23 日には、海(=地球)とつながる「わたし」を意識する曼荼羅ワークショップも開催。24 日当日は、午前中に久手堅浜の海ゴミ拾いから開始し、午後からペットボトルのフタに入ったやどかりが主人公となった「イマジネーション」をキーワードとして謳った紅型絵本「やどかりの夢」のパペット朗読劇を鑑賞。 続いて拾った海ゴミをアート作品に仕上げるアートワークショップを開催。まず浅葉弾講師から海やサンゴの実態の話を聞き、どのようなゴミが落ちているかをよく観察することからはじまり、そのゴミをどのように「イマジネーショ ン」を通して作品を創造していくか、想像した。個人作品では、海ゴミで「時計」を創作、また共同作品として、海ゴミをモチーフとして作ったキャラクターを創作。「海ゴミくん」と名付けられた。 子どもたちに海の現状と美しい海を大切にする必要性を、アートを通じて体感してもらうことができた。
活動状況	長時間に渡る開催であったが､子どもも大人も楽しんで集中して行うことができた。成果については、活動報告に詳しく掲載し、詳細の活動状況については下記に写真を掲載しながら説明を行います。
活動の効果	活動終了後に、参加者の方より自主的に活動の感想文が届いた。海ゴミがたくさん落ちていたこと、そのゴミを宝物に変えられた喜び、朗読劇を通して「イマジネーション」の重要性を感じてもらうことが十二分にできた。また大人の 参加者の方より、「遠い横浜の地から、エコ活動をして下さって感謝です。目の前にあるステキな海を私どもが大切にしていかなければいけないと考えさせられた。」との意見もあり、沖縄を愛する講師、スタッフ陣が沖縄の美しさやすばらしさを投げかけることで、日常の中にある当たり前にある「美しさ」に気が付けるきっかけとなったようにも感じる。また地域を超えての交流により、海を通してつながる人と人の交流ができたことも大きな成果だと思われる。
支援額	50,000 円

その他の支援	
成果発表の方法	交流会での口頭もしくはポスター発表

H30_08 久米島ホタレンジャーのイノー(礁湖)サンゴ探検隊

実施団体名	NPO 久米島ホタルの会
活動名	久米島ホタレンジャーのイノー(礁湖)サンゴ探検隊
活動日	2019 年 2 月 2 日、9 日
参加人数	2/2　25 名　2/9　２４名
活動場所	久米島ホタル館～大田集落周辺海域
活動内容	クメジマボタルとつながる島の自然環境を守るホタレンジャーの活動の一環として、川から海へと広がる自然生態系の仕組みや、近海のサンゴを調査し、島の自然資源を喪失ではなく再生へと促すために 2 月の活動日に胴長を着用し、河口域の赤土の堆積状況と周辺の生きもの調査を行う。
活動状況	2/2,2/9、どちらの日も、沖縄県離島観光・交流促進事業【島あっちい】のホタレンジャーと活動するプログラムに参加する沖縄本島からの旅行者も参加してもらい、久米島ホタル館から兼城海域へと向かう川に直接降りて、赤土の堆積状況や 生きもの達の状況を、ホタル館館長に解説して頂きながら歩いて、生きものを探 してもらった。
活動の効果	多くの人は、畑から流れ出す赤土の問題についての知識は有るかもしれないが、その実際の現場を目にする事や、川に流れだした赤土の実態を目にすることは、ないため、今回、川と海の汽水域を歩くことで、そこに生息する生きもの達に出会い感動する反面、この危機的な状況を、具体的に知ってもらうことができたと考えます。海のサンゴを守るためには、川と海のつながりを知る事が大切だという事にも気づいてもらえた。
支援額	44,394 円
その他の支援	
成果発表の方法	交流会での口頭もしくはポスター発表

H30_09 サンゴの不思議見っけ隊

実施団体名	社会福祉法人ふくぎ福祉会　ふくぎの郷保育園
活動名	サンゴの不思議見っけ隊
活動日	平成 31 年 2 月 23 日
参加人数	16 名（子ども 5 名　大人 11 名）
活動場所	ふくぎの郷保育園
活動内容	●サンゴについて知る ・サンゴは生きている? ・サンゴは何を食べている? ・サンゴの卵の大きさは? 等 ●サンゴの苗作り:ふくぎの郷サンゴ礁作り
活動状況	サンゴについて親子で学習を行ったのでゆったりとした雰囲気の中で話を聞き、サンゴは生きていて光ることやサンゴには手があること等知らないことが沢山あり真剣に話を聞いていた。また、サンゴの卵の大きさに似たアマランサスを触らせてもらいよりイメージがしやすかった。サンゴの苗作りも親子で協力し、ふくぎの郷サンゴ礁を作ることが出来た。
活動の効果	サンゴの事を知ることで、身近にある海に対して興味を持って過ごすようになっており、園庭に落ちているサンゴを見て「この前植えたサンゴと同じものだよ」と伝えると、「これもサンゴ?」と興味を持って楽しんで探したりする姿が見られる。
支援額	50,000 円
その他の支援	
成果発表の方法	「私のサンゴ礁展」への応募

○今後の展望

＜総括＞

第 2 回目となる平成 30 年度のジュニアサンゴレンジャー事業では、保全や普及啓発、研究に関する活動を続けている団体に直接案内の送付や声掛けを行うことで、思うように申請の集まらなかった昨年度に比べると多くの申請を集めることができた。ただし前期分の募集に関しては、実施要綱・募集用書類の改訂に時間がかかったこともあり、前期の募集開始が当初予定より遅れ、7 月 11 日～7 月 27 日とかなり短い期間での募集となってしまった。

申請のあった活動のうち、半数を超えるものが引き潮の時間を利用してサンゴ礁や干潟を徒歩で訪れ、観察やサンプリングを行う活動を含んでいた。このため時期的には、夏～初秋までの昼の潮が引きやすい季節の活動（7-9 月）に十分間に合うような実施スケジュールで募集をかけることが望ましいと考えられる。本事業の対象が、子どもがかかわる活動であるということもあり、実施者が安全を確保した上で活動を行うためにも、このことは重要であると考えられる。

申請のあった団体の所在地・主な活動地域の内訳は、9 件のうち沖縄本島が 4 件、石垣島 3 件、久米島 1 件、県外 1 件（奈良県）であった。離島・県外にも支援事業が広がりを見せる一方、石垣では 2 団体が同じ事業者に予算の大部分を使って委託しており、有効な支援のためには、今後申請が増えてきた場合、ある程度地域ごとに分散させるなどの配慮も必要であると考えられる。

また、日本サンゴ礁学会第 21 回大会での交流で、高校生などが関わった研究の発表で来場していた団体などとコミュニケーションを取った結果、本支援事業の趣旨に非常によく合致し、また活動予算の慢性的な不足に悩んでいる団体に本事業の存在が知られていない現状が明らかになった。このため、広く事業の存在をアピールすることが必須であると考えられる。一方で、今回申請数が伸びた要因として、研究や普及啓発に関して過去に活動のあった団体を web 上などで調べ上げ、担当の教員や職員に直接案内を送付したことは大きいと考えられ、本事業の知名度が上がるまでは、このような積極的に情報を届ける方法も平行して取っていく必要があると考えられる。

支援金の使途としては講師代、渡航費、活動に必要な用具や材料の購入が多くを占めた。一方で新たに活動を始める団体から相談を受けるケースもあった。金銭的な支援だけではなく、専門家とのネットワークの提供や資料（電子データ含む）・用具の貸出などの形の支援を必要としている団体は多いと考えられ、このような活動主体に対して協議会として提供できる有形無形の価値について、今一度検討し、積極的に周知していくことも重要であると考えられる。

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会
〒900-8570　沖縄県那覇市泉崎 1-2-2　行政棟 4 階
沖縄県サンゴ礁保全推進協議会事務局
（沖縄県環境部自然保護課内）
電話番号：098-866-2243
メール　：coralreef@okikanka.or.jp